

化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会（第25期・第8回）
化学委員会 IUCr 分科会（第25期・第8回）合同分科会議事要旨

日時：令和5年7月18日（火） 10時00分～11時45分

場所：遠隔会議（zoom）

出席者：秋山修志[†]、井上 豪^{†,*}、奥部真樹^{†,*}、片岡幹雄^{†,*}、上村みどり^{†,*}、栗原和枝^{†,*}、黒田玲子^{†,*}、
小島優子[†]、佐々木 園[†]、菅原 正[†]、菅原洋子^{†,*}、高田昌樹^{†,*}、高原淳^{†,*}、富安亮子^{†,*}、
難波啓一^{†,*}、西野吉則^{†,*}、山下敦子[†]

欠席者：阿久津典子^{†,*}、小林昭子[†]、野田岳志[†]、森吉千佳子^{†,*}

（[†]結晶学分科会委員、*IUCr 分科会委員）

<配布資料>

資料1：「記録（案）」

議事

1 IUCr 分科会関連

（1）IUCr2023 について

高田 IUCr 分科会委員長より、IUCr2023（開催地：メルボルン、開催期間：2023年8月22-29日）にかかわり、以下の報告があった。

1) Ewalt Prize など、各賞の受賞者について

2) 総会（8月23日、24日、27日開催）について

- ・ 日本の代表権は4票あり、木村勇氣氏（北大低温科学研究所）、栗栖源嗣氏（阪大蛋白研）、藤間祥子氏（奈良先端科学技術大）、中川敦史氏（阪大蛋白研）、および補助として井上豪氏（阪大院薬学）が総会に出席する。なお、日本学術会議からの代表派遣枠（旅費補助有）については、今回は1名で、木村勇氣氏が手続きを進めている
- ・ 総会で予定されている主要議事（来期の執行部の選挙を含む）の紹介

（2）その他

高田委員長より、下記について報告がなされた。

1) IUCr 分担金（10,000 スイスフラン）の支払いについて日本学術会議国際室へ対応を依頼

2) 第26期における継続的な活動を実施するための加盟国際学術団体に対応する分科会・小委員会の設置に関する説明会が7月19日に開催予定

2 結晶学分科会・IUCr 分科会共通議題

（1）連絡会議の活動報告

1) 持続可能な発展のための国際基礎科学年（IYBSSD2022）に関する連絡会議（担当：井上委員、上村委員）について、下記の報告がなされた。

- ・ 日本学術会議 HP にプロモーションビデオのアップロードが行われた
- ・ 学術の動向 2023年7月号に特集「持続可能な社会にとっての基礎科学——国際基礎科学年

を振り返って」が組まれた

- 2) 「カーボンニュートラルに関する連絡会議」(担当:井上委員、小島委員)および、「パンデミックと社会に関する連絡会議」(担当:菅原委員長)については、前回の分科会以降、特段の報告事項はないことが説明された。

(2) 分科会活動としての公開シンポジウム開催「記録」について

- 1) 菅原委員長より、2022年11月27日に開催された公開シンポジウム「SDGsと結晶学」、および、2023年5月27日に開催された公開WEBシンポジウム「基礎科学が導くSDGs達成への道～結晶&生命&技術革新～」について、参加者数、事後アンケートの集計結果などについての報告の後、両シンポジウムについて、分科会活動としての「記録」作成をするための編集方針が確認された。
- 2) 「記録(案)」の原案が示され、意見交換を行い、追記および修正すべき点について確認の後、以降の軽微な修正は委員長に一任することで改定案が承認された。今後の予定として、化学委員会への報告と物理学委員会の承認を経て、第3部会へ提出される予定であることが説明された。

(3) 第26期への引継ぎ事項

意見交換を行い、来期への引継ぎ事項を以下とすることとした。

- 1) IUCr分科会としては、引き続き、IUCrへの対応を進め、我が国の結晶学の国際的な貢献を推進する活動を引き続き行う。
- 2) 結晶学分科会としては、公開webシンポジウム等の開催等を通じて社会への発信を続けるとともに、学術の進むべき方向にかかわる重要な課題について議論を高め、関連分野と連携し、達成に向けた方策を図る。

(4) 日本学術会議問題の現状について

菅原委員長および佐々木委員(第3部会員)より、日本学術会議改正法案の今期国会への提出は見送られた一方、後藤担当大臣の下に有識者懇談会が設置されることとなり、これらを受けて、会長からメッセージ「学術の発展とより良い役割発揮のために、広く関係者を交えた開かれた協議の場を」が出されたことについての報告があった。

(5) その他

化学委員会の活動について菅原委員長により以下が報告された。

- 1) 2023年6月15日に、分子科学研究所長招聘会議公開シンポジウム「次世代型元素戦略を考える」が、ハイブリッド開催された。
- 2) 博士小委員会では、ケムステーションの場を利用し、活動を引き続き行っていくことを予定している。
- 3) 第26期の化学委員会合同会議については、令和5年12月の開催を計画している